

令和2年度学校評価(年間評価)

学校名	大分県立宇佐支援学校
-----	------------

前年度評価結果の概要	<p>○授業計画シートや略案シートにより授業を行い、共同授業者で授業評価ミーティングを行ったことで、年間指導計画等への反映を行うことができ、教職員一人一人が大きなPDCAへの意識を持つことができた。</p> <p>○2度の防災訓練での避難所運営に係る防災教育や市役所との協議等により、避難所運営マニュアルを完成させ、災害時の学校体制や初動体制の意識を高めることができた。</p> <p>○保護者や関係機関と支援者ミーティングを行うことで、児童生徒の課題等を共有し、個別の教育支援計画へも反映できた。また、各学部で地域の特長ある講師を招く、学校間の交流及び共同学習を行うなどして、つながりを持つことができた。</p> <p>●学校教育目標を全職員で共有し、授業実施及び評価の視点を確認することで、一人一人の教職員が授業を改善できた実感を持つとともに、学部間の授業に系統性をより持たせる必要がある。</p> <p>●避難所運営についての教職員一人一人の初動体制を徹底するとともに、保護者への引き渡し訓練等、さまざまな災害時のケースを想定した防災訓練を実施し、防災体制を強化する必要がある。</p> <p>●支援者ミーティングを地域と連携して児童生徒の将来を見据え、高められる内容に改善する。また、外部講師等、地域の資源活用にあたっては、学校教育目標にそって学部間の系統性を高める必要がある。</p>
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
児童生徒一人一人の尊厳を重んじ、個々の能力・特性に応じた適切な教育を行い、生きる力を育むとともに、自信をもって社会参加・自立をめざす明るく豊かな心を持った人間の育成に努める。	<p>○「人権尊重の視点」を活用した授業実践及び進路指導</p> <p>○生徒指導・防災・緊急時対応マニュアルの完備と実践</p> <p>○地域・関係外部機関との連携強化と積極的な情報発信</p>	<p>○つけたい力を明確にした授業実践</p> <p>○災害時に対応できる学校体制の構築</p> <p>○家庭や地域、関係機関と連携した児童生徒の育成</p>

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価
					評価	分析・考察		
○つけたい力を明確にした授業実践	<p>・身につけたい力「みとめる」「つながる」「やりとげる」を盛り込んだUSAスタンダードの完成。～授業評価ミーティング200回実施～</p> <p>・各学部重点目標の見直しと改訂3件。</p>	<p>・各学部の重点目標をキーワード化して分析し、身につけたい力を共有した授業実践。</p> <p>・授業評価の蓄積を教育課程及び年間指導計画の改善につなぐための組織を構築した実践。</p>	<p>・学校教育目標及び学部重点目標をキーワード化して全教職員で共有。(4月中)</p> <p>・つけたい力を視点とした授業評価ミーティングの実施。(週1回)</p> <p>・つけたい力をもとにした授業実践の評価によるUSAスタンダード(本校授業の指針)の改訂。(1月)</p>	<p>PL:研修部 SL:教務部 主幹教諭</p>	4	<p>・4.21全体研修会を実施し、キーワード化した3つの視点「みとめる・つながる・やりとげる」についての経緯を説明し、共有することができた。</p> <p>・つけたい力を視点とした授業評価ミーティングを週1回279回実施。(8グループ)つけたい力をもとに、授業の展開を振り返ったり児童生徒の様子を評価するための一定の基準とすることができた。</p> <p>・つけたい力3視点、授業計画・略案シート、授業評価ミーティングを軸とした本校の授業の指針としてUSAスタンダードを完成させることができた。</p>	<p>・キーワード化した身につけたい力を共有した授業実践が定着した。しかし、今年度の取り組みだけでは、新学習指導要領に基づいた授業実践を網羅できていないため、再度学習指導要領を読み解いて理解を深めていく必要がある。</p> <p>・3つの柱に沿った授業の目標設定および観点別の評価についての教職員一人ひとりの理解を深めるために、研修を計画し実施していきたい。</p>	<p>・生徒に成長がみられる。「みとめる・つながる・やりとげる」に共鳴した。学園の運営方針にも入れた。今後も学校と学園とで連携していきたい。</p>
					4	<p>・毎月末に授業実践に関する評価を記載、集約結果を7月末、11月に集約、集約結果を教職員へ還元した。</p> <p>・8月、11月、12月、1月に教科・領域担当者会議実施。年間指導計画の評価を集約し見直すことで学部学年を横断した題材配列表を作成した。年間指導計画の改善案を提示することができた。</p> <p>・12月授業計画シート、略案シートの評価で出たつけたい力の集約をもとに学部会でみつやの視点を取り入れた重点目標を改訂した。</p>		
○災害時に対応できる学校体制の構築	<p>・災害時の初動対応が理解できたと答える保護者100%。(アンケート等への回答者を母数とする)</p> <p>・在宅時、通学時(スクールバス、自転車)の防災対応のマニュアル策定100%。</p>	<p>・全教職員へ学校防災マニュアルについて周知し、在校時からの引き渡し訓練、帰宅困難児童生徒への対応訓練を実施。</p> <p>・在宅時、通学時(スクールバス、自転車)の防災訓練及び防災教育の実施。</p>	<p>・避難所運営研修の実施及び未実施分野の防災訓練の確認。(4月中)</p> <p>・引き渡し訓練の立案及び保護者説明。(5月中)</p> <p>・引き渡し訓練への保護者参加及びアンケートの実施。(6月)</p> <p>・災害時帰宅困難な児童生徒対応訓練、防災教育後の保護者アンケートの実施。(12月中)</p> <p>・完成版学校防災マニュアルの改訂。(1月中)</p>	<p>PL:生徒指導部 SL:特別活動部 主幹教諭</p>	3	<p>・6月分散型の避難訓練(地震)を実施、合わせて保護者連携の引き渡し訓練を実施。保護者アンケートで初動対応が理解できたと回答 85.7%。</p> <p>・10月に宇佐市役所と協議を行い、協定を締結した。細かい運営方法について、今後も協議を継続していく。</p> <p>・12月PTAで保護者参加型の防災教育を実施。在宅時、外出時(通学時)等の避難方法について学習を深めることができた。(保護者参加60名 防災教育への理解、内容が適切と回答96%)</p>	<p>・引き渡し訓練については、課題(引き渡し方法、待機場所等)の改善を行い、スムーズに引き渡しができるよう、来年度も継続して訓練を実施する。</p> <p>・本校が福祉避難所として使用された場合のシミュレーションを行うことが今後の課題となってきた。市役所との協議を継続していく。</p>	<p>・年に1回の引き渡しや電話メール等での受け取りの練習などは必要である。保護者、学校との連携が重要である。</p>
					2	<p>・実施可能な防災訓練の内容を確認・決定。(7月中)</p> <p>・在宅時、スクールバス・自転車通学時に災害にあった場合のマニュアル及び防災教育案の策定。(8月中)</p> <p>・教職員によるシミュレーション及び防災教育の実施。(9月中)</p> <p>・防災訓練への保護者参加及び防災教育の実施。(12月中)</p> <p>・保護者マニュアルの説明・周知。(12月中)</p> <p>・課題をもとにしたマニュアル案の改訂。(1月中)</p>		
○家庭や地域、関係機関と連携した児童生徒の育成	<p>・小1、小4、中1、高1における支援者ミーティングでの長期目標の改善及び児童生徒・保護者との共有10件以上。</p> <p>・学部間のつながりを意識した地域連携の年間指導計画への位置づけ各学部2件以上。</p>	<p>・支援者ミーティングの実施内容の見直し。</p> <p>・個別の教育支援計画への反映、児童生徒への授業改善。</p>	<p>・支援者ミーティングの内容・実施方法の検討・決定。(4月中)</p> <p>・保護者、関係機関等への実施方法及び目的の説明、周知。(5月中)</p> <p>・対象児童生徒のミーティングを全員実施。(10月中)</p> <p>・児童生徒の進路や長期目標に係る計画や授業への反映事例10件以上。(1月中)</p>	<p>PL:教育支援部 SL:進路指導部 主幹教諭</p>	4	<p>・4月:支援者ミーティングの実施方法決定</p> <p>・5月:関係機関への趣旨説明と周知。保護者にはPTA総会実施できず文書にて説明、担任から個別に説明を行った。</p> <p>・6月～12月:支援者ミーティング対象者26件実施。(事情により2件未実施)</p> <p>・1月:支援者ミーティングを行ったことで保護者や関係機関と将来について話し合い、それを反映して個別の教育支援計画を作成することができた。(26件の支援者ミーティング中26件反映)</p>	<p>・来年度支援者ミーティング実施により1クール終了するため引き続き定着を図っていく。</p> <p>・進路指導に活かすため、進路指導部とより連携した支援者ミーティングを行う。</p>	<p>・高等部の生徒は将来めざすもの、目標をより具体的に盛り込んでいくと目指している自立するという生活に近づけるモチベーションになる。</p> <p>・実習の際に生徒に将来の目標を聞くと、目標をしっかりと覚えていた。就労して目標がないと長続きしない。モチベーションは大事。</p>
					2	<p>・つけたい力をもとに、地域連携年間計画を作成し、各学部のねらいを共有。(5月中)</p> <p>・地域連携マップの作成。(6月中)</p> <p>・新規地域連携先の開拓5件以上。(12月中)</p> <p>・地域連携を取り入れた授業実践を各学部2件以上。(12月中)</p> <p>・学部の重点目標に照らして地域連携を評価。次年度年間指導計画への位置づけ(1月中)</p>		

総合評価 次年度への展望等	<p>○1年間の授業評価ミーティングを通じて、授業改善のサイクルは定着した。年間指導計画及び教育課程の改善につなげていきたい。</p> <p>○支援者ミーティングも実施率が上がり、教育支援計画への反映も定着してきた。引き続き、関係機関との連携に力を注いでいきたい。</p> <p>●コロナ禍で、災害時の対応や地域連携は計画通りに実施できず、思うように推進することができなかった。何がやれるか見極めながらできる所から手を付けていきたい。</p> <p>●新学習指導要領への対応、つけたい力の検証、様々な評価を今後を生かしていくシステムやデータの活用などを次年度の課題とする。</p>
------------------	--